

## 日本年クロージング式典の開催について

平成 22 年 12 月 9 日

11 月 25 日（木曜日）18 時（現地時間）より、トルコ・イスタンブール市内のハリチ・コングレス・センターにおいて、「2010 年トルコにおける日本年」を締めくくる日本年クロージング式典が開催されました。

この式典には、日本から、松下忠洋経済産業副大臣、主催者である「日本年」実行委員会を代表して、梅田貞夫副委員長（鹿島建設代表取締役会長）、澤田浩副委員長（日本製粉代表取締役会長兼社長）、トルコからギュナイ文化観光大臣をはじめとしてトルコの政治、経済、学術・文化、マスコミなど各界から参加者があり、その総計は 600 名を超えました。

1. 式典に先立ち、ホワイエでは日本年に関するパネルや 3 D テレビの大型モニターがディスプレイされて、式典参加者はそれぞれの展示を楽しみました。



2. サダーバード・ホールで開催されたクロージング式典は、高野あゆ美さん（「日本年」親善大使を務めるトルコで活躍する日本人女優）の司会で開会が告げられ、梅田副委員長による挨拶で幕を開けました。梅田副委員長は、日本年を通して日本とトルコはお互いに新しい側面を知り、両国の国民に理解と共感が広まった、日土両国は今後とも良き友人、パートナーであり続けることを願っていると述べました。



式典にてご挨拶される梅田副委員長

梅田副委員長の挨拶に引き続き、松下経済産業副大臣が挨拶しました。副大臣は、エルトゥール号遭難事件以来、日土両国は120年かけて友情を育んできた、クローリング式典が行われている今日を121年目に向っての新しい出発の日とし、ゆるぎない信頼関係を有する両国関係を築いていきたいと述べました。



式典にてご挨拶される松下経済産業副大臣

次いで、日本年の実施に多大の貢献をしたギユナイ文化観光大臣及び、コティル・トルコ航空社長に対し澤田副委員長から表彰が行われ、ギユナイ大臣及びコティル社長からそれぞれ挨拶が行われました。



澤田副委員長とコティル・トルコ航空社長



澤田副委員長とギユナイ文化観光大臣

式典はその後、菊の会による日本舞踊ショーへと続き、菊の会の皆さんが披露する「長唄3曲と舞」の素晴らしい演技に聴衆は大きな拍手と喝采を送っていました。



菊の会日本舞踊ショー第一部

その後、トルコ人「Friends of Japan」によるスピーチ第一部が行われました。ここでは日本語学習者代表，政府招聘者代表，国費留学生代表，学術分野代表から合計4名がスピーチを行いました。



シェブネム・ゼンギン氏  
エルジェス大学日本語・日本文学科



ヒュセイン・ガエリオール氏  
JICA 訪日研修生協会会長



ネジャト・ボラ・サヤン氏  
帰国留学生協会会長



セルチュク・エセンペル氏  
日本研究学会会長

スピーチの後，神谷郁代さんによるピアノ公演が行われました。神谷さんが奏でる素晴らしい音律に参加者は温かい拍手と喝采を惜しみませんでした。



神谷郁代さんピアノ公演

ピアノ公演の後には，国際交流基金「ふろしきデザインコンテスト」の結果発表が行われました。





最優秀賞作品「流れ」についてプレゼンする古屋昌人  
国際交流基金カイロ日本文化センター所長

続いて、トルコ人「Friends of Japan」によるスピーチ第二部が行われました。この第二部では、政治分野代表、名誉総領事、経済分野代表、友好協会・顧問委員会代表の合計4名がスピーチを行い、今後の両国間関係の発展に尽くしていく意気込みを表明しました。



アギヤフ・カスカフ氏  
土日友好議連会長



メムドゥフ・ポイダック氏  
在カイセリ日本国名誉総領事



トウヅ・イ・オス・イルハシ氏  
日土合同経済委員会委員長



タイヤール・サドゥクラル氏  
土日基金理事長

次いで、菊の会による日本舞踊ショーの第二部が行われました。第二部では、「阿波踊り」が披露され、コミカルな中にも格調の高い日本舞踊の美にトルコ人の参加者は強い印象を受けました。



菊の会日本舞踊ショー第二部

日本年の最後を飾るこの式典は、両国出席者の温かい拍手と喝采によって幕を閉じました。出席者はこの後ビュフェディナーを楽しみつつ、この1年間の日本年について話に花を咲かせていました。